

課題番号	LZ009
------	-------

**先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム)
実施状況報告書(平成22年度)**

本様式の内容は一般に公表されます

研究課題名	幹細胞科学技術の統合的イノベーション・マネジメント研究と人材育成・事業化支援
研究機関・ 部局・職名	国立大学法人京都大学 物質－細胞統合システム拠点・特定拠点准教授
氏名	仙石 慎太郎

1. 当該年度の研究目的

本研究プロジェクトの立ち上げ期と位置付け、先行研究や調査資料等の収集と精読を進めつつ、産業クラスター研究を中心に、精査対象とする海外バイオ産業クラスターの候補を選定し、フィールドワーク実施に向けた初期的なコンタクトを講じる。研究グループ全体では、これらの取り組み結果を踏まえ、次年度以降の研究計画の精緻化に努める。

2. 研究の実施状況

研究代表者が所属する京都大学 物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS) 内に本研究プロジェクト事務局を設置し、事務局のセットアップ並びに研究員(1名)及びリサーチ・アシスタント(3名)の採用を進めた。並行して、学内外との共同研究・研究協力体制を再確認し、適宜、各種契約措置を完了或いは手配した。各研究班の実施状況は以下のとおりである：

(1) サイエンス・リンケージ研究班
世界最大規模の学術論文データベースを構築・運用する企業、及び医薬分野で世界最大規模の研究開発プロジェクト価値評価データベースを構築・運用する企業との産学連携共同研究体制を確立し、構築予定のデータベースの基本コンセプト・デザインを検討した。幹細胞科学技術のイノベーション推進のための当面の調査・研究対象としては、「創薬研究開発」、「テララーメイド医療」、「ハイブリッド人工臓器」及び「再生医療・細胞治療」の4つの製品・サービス領域を設定した。

(2) 産業クラスター研究班
技術経営・産業論分野を専門とする研究員(常勤)1名を採用した。当面の調査対象とする海外産業クラスターとして、英国エジンバラ地域、米国ウィスコンシン州マディソン地域、北欧メディコンバレー地域の3地域を選出した。また、調査・分析の手法論を開発するための国際学術共同研究体制を確立した。

(3) ビジネス・モデリング研究班
幹細胞イノベーションの検討・推進母体として、iCeMS のサテライト型産学公連携支援組織である特定非営利活動法人京都SMIとの提携・協力関係のもと、「幹細胞産業応用促進イニシアティブ(仮称)」を設立した。そのうえで、産業界を対象としたローンチ・セミナーを2月28日に開催し、研究プロジェクトの方針・計画の発信に努めた。また、幹細胞イノベーションの担い手となる各分野の有力企業(約10社)、及び関連する大規模競争的資金プロジェクトの相互協力体制を確認した。

様式19 別紙1

3. 研究発表等

雑誌論文 計0件	(掲載済み一査読有り) 計0件 (掲載済み一査読無し) 計0件 (未掲載) 計0件
会議発表 計3件	<p>専門家向け 計2件</p> <ul style="list-style-type: none"> 仙石慎太郎、「幹細胞技術の標準化と産業応用の国際動向」政策研究大学院大学公開シンポジウム「標準化と知的財産権—情報通信分野等に関する最新動向及びバイオ分野における可能性—」、東京、平成23年2月26日、政策研究大学院大学 仙石慎太郎、「京都大学 物質—細胞統合システム拠点(iCeMS)におけるイノベーションの取り組み」、京都、平成23年3月11日、(株)産業革新機構 <p>一般向け 計1件</p> <ul style="list-style-type: none"> 仙石慎太郎、「学際・国際・産学公連携による幹細胞イノベーションの新展開」京都SMI産学公連携セミナー「ES/iPS 細胞×スマート・マテリアルの融合イノベーション—ヒト幹細胞の産業応用における「ものづくり」力の発揮—」、東京、平成23年2月28日、NPO 法人京都SMI(代表者らが企画)
図書 計0件	
産業財産権 出願・取得状況 計0件	(取得済み) 計0件 (出願中) 計0件
Webページ (URL)	<p>広報室、京都大学物質—細胞統合システム拠点</p> <p>http://www.icems.kyoto-u.ac.jp/j/pr/2011/02/14-tp.html#sen</p>
国民との科学・技術対話の実施状況	<p>京都SMI産学公連携セミナー「ES/iPS 細胞×スマート・マテリアルの融合イノベーション—ヒト幹細胞の産業応用における「ものづくり」力の発揮—」、平成23年2月28日、東京(京都大学東京オフィス)、関連分野の企業・マスメディア関係者、約90名、産業応用が期待されるヒト幹細胞とその周辺技術について、日本発・グローバル展開の機会と方策を議論した。</p>
新聞・一般雑誌等掲載 計1件	<p>週刊東洋経済2011年3月19日号、pp.80-81、これから注目の理系職種／専門スキルを幅広く生かす／社会が求める注目の理系職種</p>
その他	

4. その他特記事項

特になし。

実施状況報告書(平成22年度) 助成金の執行状況

本様式の内容は一般に公表されます

1. 助成金の受領状況(累計)

(単位:円)

	①交付決定額	②既受領額 (前年度迄の 累計)	③当該年度受 領額	④(=①-②- ③)未受領額
直接経費	84,000,000	0	27,870,000	56,130,000
間接経費	25,200,000	0	8,361,000	16,839,000
合計	109,200,000	0	36,231,000	72,969,000

2. 当該年度の収支状況

(単位:円)

	①前年度未執 行額	②当該年度受 領額	③当該年度受 取利息等額 (未収利息を 除く)	④(=①+②+ ③)当該年度 合計収入	⑤当該年度 執行額	⑥(=④-⑤) 当該年度未執 行額
直接経費	0	27,870,000	0	27,870,000	807,766	27,062,234
間接経費	0	8,361,000	0	8,361,000	0	8,361,000
合計	0	36,231,000	0	36,231,000	807,766	35,423,234

3. 当該年度の執行額内訳

(単位:円)

	金額	備考
物品費	414,136	PC2台、ポケットプロジェクター
旅費	257,000	研究打合せ旅費等
謝金・人件費等	120,000	研究補助員謝金
その他	16,630	研究会参加費
直接経費計	807,766	
間接経費計	0	
合計	807,766	

4. 当該年度の主な購入物品(1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様・型・性能 等	数量	単価 (単位:円)	金額 (単位:円)	納入 年月日	設置研究機関 名
				0		
				0		
				0		